

# 誰もが自分らしく生きられる まちを創るために

～共生社会実現に向けて～



# 渋川市はこんな街

平成18年2月20日、渋川市、伊香保町、小野上村、子持村、赤城村、北橋村の1市1町4村が合併し「**渋川市**」が誕生

## 概要

面積 **240.24km<sup>2</sup>**

人口 **72,265人** (令和6年9月末日現在)

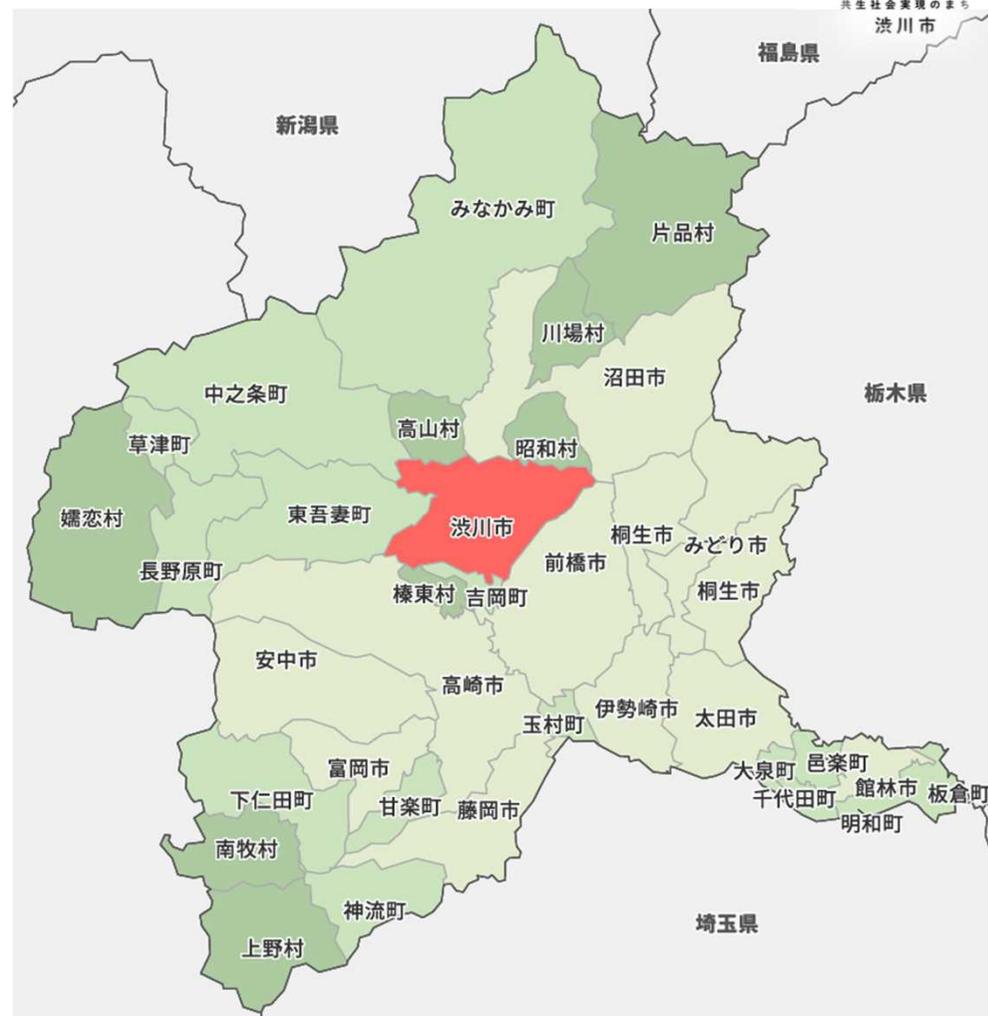
障害手帳所持者数 **4,519人**

(令和6年3月31日現在)

人口に占める割合 **6.2%**



共生社会実現のまち  
渋川市

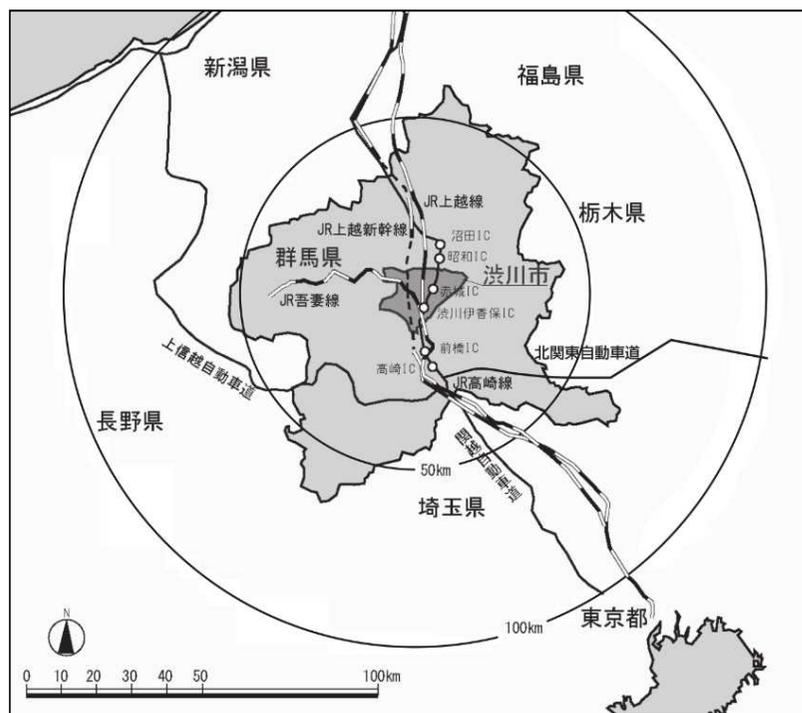


# 恵まれた交流拠点機能



江戸時代は、渋川宿として参勤交代の大名や旅人の往来などで発展  
六斎市や馬市が開かれ、市場町として繁栄

明治時代から近代にかけては、北毛の交通の要衝として、馬車鉄道や路面電車などが開通



## 現在

東京都心まで  
高速道路（関越自動車道）で約2時間

JR上越線及び新幹線利用で約1時間30分

鉄道（2路線・8駅）

路線バス（25路線）

高速道路（2か所インターチェンジ）

# 伊香保温泉 日本の名湯（上毛かるた）

伊香保温泉の起源は、第11代垂仁天皇の時代に発見されたという説と、草津温泉と同じように行基によって見つけられたという説がありますが、南北朝時代の書物には、すでに温泉が湧き出ていると書かれていた古くからある温泉



伊香保温泉 石段街

# 共生社会推進啓発ピンバッジ

## ～シンボルマークについて～



### 【コンセプト】

澁川市の花、**あじさい**をモチーフとしています。  
様々な色の花を一人一人に置き換え、あじさいの  
ように**一つになって暮らしていく**という意味が込  
められています。

みんなが一体感を持って取り組む

# 本市が「共生社会推進」に取り組むのは



全日本ろうあ連盟  
結成の地記念碑

1947年（昭和22年）5月25日  
全日本ろうあ連盟創立

（伊香保温泉 木暮旅館（現在のホテル木暮））



2016年（平成28年）12月13日  
「渋川市手話言語条例」制定

# 共生社会推進の加速



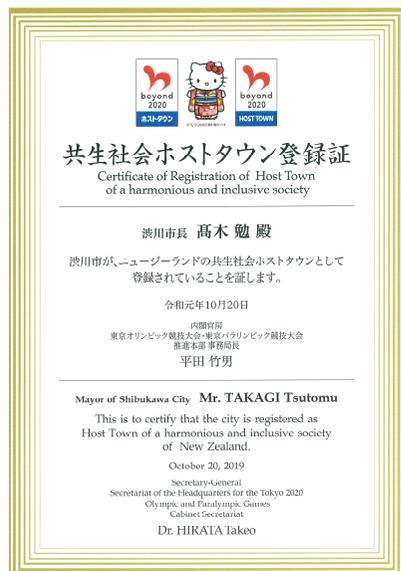
令和元年10月  
共生社会ホストタウン登録

東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に  
**共生社会を実現しよう！**

「ユニバーサルデザインのまちづくり」  
「心のバリアフリー」

…取組を**加速**

利便性や効率を優先し、健常者による「最大公約数的」な幸福を追求してきた社会から、これまで「排除されてきた人たち」を包み込む社会へと、ようやく変わり始めている！



# 4つの社会的バリア

## 物理的なバリア

電車やバスなどの公共交通機関、道路や建物などで、利用する人に不便さを感じさせる物理的なバリアのこと

点字ブロックの上にある自転車や、建物までの段差など



## 制度的なバリア

社会のルールや制度によって、その人が持っている力を出すことができる機会をうばわれているバリアのこと

障害等を理由に、学校の入試、就職や試験などの受験や免許などを与えることを制限するなど



## 文化・情報面でのバリア

情報の伝え方が十分でないために、必要な情報が平等に得られないバリアのこと

視覚に頼ったタッチパネル式のみの操作盤や、点字・手話通訳のない講習会など



## 意識上のバリア

心ない言葉、偏見や差別、無関心など、困難さがある人を受け入れないバリアのこと

変な目で見たりかわいそうだと決めつけたりすること  
点字ブロック等の設備に物を置いたり無視したりすることなど



# 共生社会推進実現に向けた取組



「障害」の**社会モデル**の視点の獲得し、  
差別の解消や**合理的配慮**のための具体的な行動へ繋げる

「**共生社会の実現**には  
一人一人の理解が非常に重要であると改めて  
実感しました」



職員研修

「まだまだ**意識のあり方**を変えていく必要  
があると思います」



市民向け研修

「自分たちが、**障害者も  
生きやすいような環境を**  
つくらないといけないこ  
とが分かりました」



中学校での研修

# 「共生社会実現のまち 渋川市」 推進共同宣言

(R6.4.1現在 81団体が賛同)



- 差別、虐待、暴力を否定し、お互いの人権や尊厳を大切にします
- 社会に存在するバリアを理解し、これを取り除くための行動を起こします
- お互いが持つ資源、素質を最大限活用し、様々な課題の解決に向け取り組みます
- 共生社会の機運の醸成を図ります



「共生社会実現のまち 渋川市」の推進に向け、協力して取組を行う団体等の代表者と宣言書に署名

# ユニバーサルツーリズムの推進



## 【ユニバーサルツーリズム】

誰もがあきらめることなく、気兼ねなく  
安心して参加できる旅行のこと

<b>現状</b>	旅行（観光）は、移動・食事・宿泊などの面において、障害者や高齢者、児童にとって、身体的にも経済的にも制約や課題が多くある。
<b>課題</b>	高齢者や障害者、児童などの旅行に関する体系的な体制が整えられていない。

# ユニバーサルツーリズム推進に向けたまちあるき点検・調査



多目的トイレの場所を確認



車椅子で施設に入れるか確認

車椅子で通れる道を確認



観光施設のバリアについて調査



車椅子で温泉に入れるか確認



だれもが楽しめる観光地を目指して研修

# 共生社会推進に係る主な取組



- ・「**澁川市手話言語条例**」の制定（平成28年12月13日）
- ・「**澁川市インターネット上の誹謗中傷等の防止及び被害者支援に関する条例**」の制定（令和4年3月9日）  
インターネット上の誹謗中傷等の被害者支援
- ・「澁川市男女共同参画及び多様性を尊重する社会を推進する条例」の制定（令和6年3月7日）
- ・観光庁の「**心のバリアフリー認定制度**」に取り組む宿泊施設への支援（現在11軒）  
「受け入れる側」の環境整備
- ・**伊香保温泉のバリアフリーマップ**
- ・店舗バリアフリー改装等助成事業（令和5年度：2件）
- ・災害時ヘルプバンドナ普及推進事業
- ・遠隔手話通訳サービス事業
- ・医療的ケア児支援事業
- ・認定こども園及び幼稚園における医療的ケア児の支援事業
- ・LGBTリーフレットの配布



# 心のバリアフリーの 取組はしているけれど



身体にハンデのある人が自分の意思で行動するためには  
**バリア（障害）が多い**



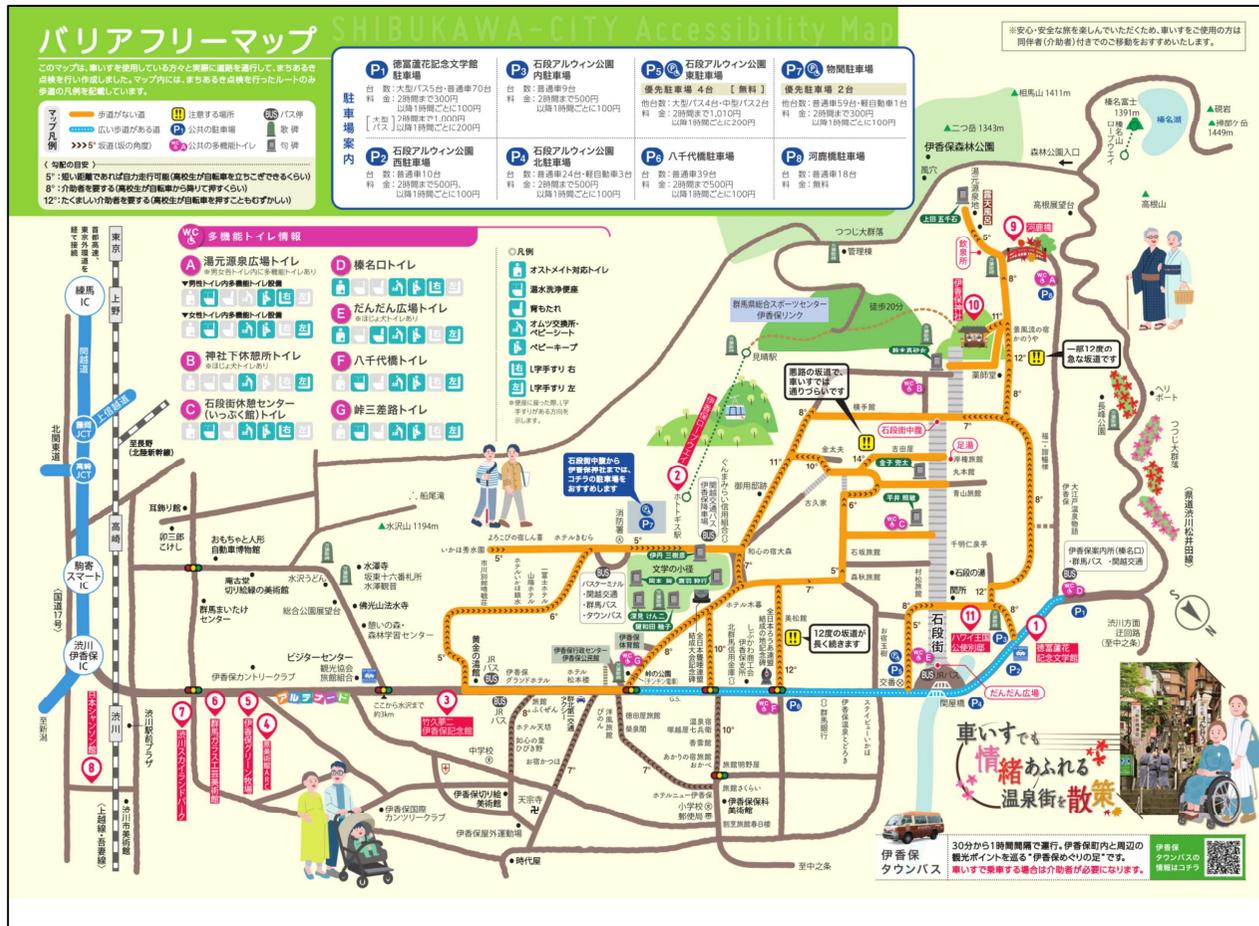
視覚障害者 聴覚と触覚が頼りだが情報量は少ない

下肢障害者 移動できるかは道路や建物の構造に大きく左右される  
(ルート上に一段の段差があるだけでたどり着けない)



行きたい場所に行けるかどうかの不安が大きいため、諦めてしまう

# バリアフリーマップも作成しているけれど



身体にハンデのある人が街中の移動を選択できるような情報を盛り込んだが、行きたい場所に行くかどうかを判断するためには、他にも必要なことがあるのでは…？

多機能トイレの有無や坂道の勾配など、バリアフリー状況を盛り込んだマップ

# 共生社会を実現するためには？



- 法律に基づく施策
- 支援メニューの充実（他者からの支援の充実）

- 心のバリアフリーの取組

- 身体にハンデのある人が「自分らしく行動できる」状態を創る  
= 外部からの支援の有無に関わらず、行きたいところに行くかどうかを自分自身で選択できる

渋川市の  
現状

目指す姿

# 例えばこんなケース

渋川 太郎

市内在住

性別：男性

年齢：55歳

職業：マッサージ業

家族構成：単身（独身）

障害：視覚障害 2級

年金：障害基礎年金 2級

家事などは、家事援助サービスも利用しながらではあるが、概ね一人でできる。勤務先である伊香保温泉のホテルには、徒歩で通勤しており、通いなれた道であれば、一人で歩行することに支障はない。

最近、伊香保温泉のメインストリートである石段街に、**新しいお店がオープンしたことをお客様から聞き、行ってみたいと思っているが、一人で石段街へ行くことに不安がある。**

また、買い物には、ガイドヘルパーに付き添ってもらい、バスに乗って渋川市内に行くことはあるが、**買い物先と家を往復するだけで、市内にどんなお店があるか知らない。**

最近、コーヒーの美味しさを知り、いつか、一人でおいしいコーヒーが飲めるカフェに行ってみたいと思っている。



# 例えばこんなケース

渋川 榛名  
都内在住  
性別：女性  
年齢：42歳  
職業：事務職  
家族構成：両親同居（独身）  
障害：下肢機能障害 3級 日常的に車椅子を利用

家庭生活は、両親の援助もあり、通院や買い物などの外出も含めて不自由なく送ることができる。

勤務先は家の近くにある企業で、雨天時などは大変であるが、自力で通勤することができる。

最近、群馬県の伊香保温泉がテレビで紹介されており、旅行してみたいと思い市が作成する「バリアフリーマップ」を確認したが、**観光の中心地である石段街に本当に行けるか、その他の場所も坂道が多いことから移動に支障がないか、宿泊施設についても車椅子で温泉を楽しむことができるか不安で、両親に話すことができない。**

障害があるため、旅行は諦めなくてはならないと自分に言い聞かせている。



# 私達の思い



障害の有無・年齢にかかわらず、市内外の人から愛される  
快適で質の高い余暇空間を提供できないか

渋川市の地域特性に適した  
ユニバーサルツーリズムを構築したい

仕事や通院など「行かなければならない」場所への移動は  
支援がなくても（一部支援を受ければ）できる



余暇を楽しむためなどの移動はすぐにはできない  
行くか行かないかの選択が一人では決められない

判断のためには  
健常者よりも多  
くの情報が必要

健常者と同じように、行きたいところへ行くかどうかの判断を  
自分自身で選択できることが、**共生社会の実現**につながる

# 御提案いただきたいこと

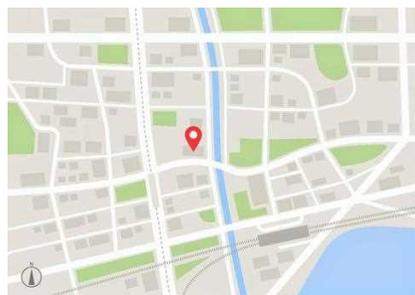


障害の有無・年齢に関わらず、誰もが諦めず自分らしく  
生きられることを支援することにつながる技術やサービス

## 例えば

視覚障害者が自ら行き先を選択することのできるための情報提供手段

車椅子利用者や高齢者が気兼ねなく旅行できるための情報提供手段や支援策



これまで十分に活用されていなかった道路情報などの  
データの活用やデジタル技術の活用など

# 渋川市が提供できるリソース



- 課題解決に向けた障害者団体との協力体制
- 身体にハンデのある方を支援するスマートフォンアプリ等は、既に存在していますが、これを更に充実したものとするため、行政が保有する道路情報の提供
- 伊香保温泉という身体にハンデのある人にとってバリア（障害）しかない観光地での事業展開によるインパクト

企業の皆様からのご提案を受けて  
一緒にチャレンジしていきたいので  
どうぞよろしくお願ひします！



誰もが自分らしく生きられる  
まちを創るために

